



令和5年11月30日



# かみせや

横浜市立上瀬谷小学校 学校だより

12月号

上瀬谷小学校教育目標

学び合う子

認め合う子

鍛え合う子

## 「わかる」から「かわる」まで～上瀬谷の人権月間～

校長 小林 京子

「人に流されて、うわさで相手を決めつけない」「親切心からで、それを言う必要が本当にあるのかをしっかりと考えて伝えないと、聞かされた人はもやもやするだけ」「友達のいいところを見つけて、自分で友達について判断したい」

11月8日（水）の5校時は担任らが演じる三つの場面（これっていじめかなと考える場面）を教材に、5・6年生全員で道徳の学習をしました。体育館できらぼか班のグループを利用して車座になっての話合い活動です。円の中心には、5・6年担任の他、専科の教員や授業を終えた1～3年生の教員も入り、5・6年生の言葉に耳を傾けました。

12月4日から、今年も全国で人権週間が始まりますが、それに先駆けて、上瀬谷小は、10月31日の朝会から「人権月間」をスタートしています。「日頃が大事」を合言葉に教育活動を進めている本校では、日頃から、きらぼか班での異学年と関わる取り組みを始め、できるだけたくさんの学年と交わったり保育園や支援学校や地域の協力者の方々と出会ったりできるようにしています。人との交わりの中では、良くない言葉を使ったり失礼な行動をしてしまったりすることも出てきましたが、それこそが学び。失敗したらやり直しをしながら人との付き合い方、人への「思いやり」を育てているところです。

朝会では、「じんけんってなあに？」と絵本を使って1年生にもわかるように「だれもがみんな大切な子どもたち。だから、大人も子どもも友達もまちの人も、お互いを大切にしなければいけない。」ということについて私が話をしました。高学年にはさらに「差別」についても触れました。常々、朝会等を通して「やさしくね」「思いやりをもってね」と何度も話してきていますし、小さなときから家族にも言われてきているので、子どもたちも頭では「わかっている」と思います。でも、子どもたちは、嫌な感情を表現するときに案外簡単に「し〇」「き〇ろ」「〇か」、親切にしてくれた子にも「さ〇るな」など言い、言われた子は傷ついています。言ってしまった子もあとから考えると「〇〇って言ったことは悪かった」「じんけんにかかわることを言ってしまった」という反省が出てきます。

横浜市の生活状況意識調査の中で「いじめはどんな理由があっても許されないことだと思いますか」という問いがあります。本校の子どもたちは約85パーセントの児童が「そう思う」と答えています。ここで、改めて子どもたちに指導していきたいことは、「傷つけられても仕方ない理由をもった人は一人もいない、人を傷つけてもいい権利をもって生まれた命などこの世に一人もいない」ということです。人権月間をかなめに日頃の生活の中で学ばせていきたいと強く感じております。「わかった」から「かわった」時を見つめながら。

自分が大事にされていることを実感することで、人にやさしく温かくできるものです。家庭、地域、学校で子どもたちを愛し、温かくも厳しく一緒に育てていきましょう。